

第5回 北極海航路に係る官民連携協議会 議事要旨

【開催概要】

日時：平成28年6月6日（月）14:00～15:40

場所：中央合同庁舎4号館1階 共用108会議室

【議事概要】

- 1, 開会
- 2, 関係省庁からの情報提供
- 3, 特別講演

[参加企業等との質疑応答等]

（構成員）

5月24～26日に開催が予定されていたノルウェー船主協会主催「Arctic Business 2016」が、参加予定者数が想定より少なかったことを理由に延期されています。このような状況を踏まえ、ノルウェー他欧州の海運事業者の北極における事業への熱意をグンナーソンさんはどのようにお考えでしょうか。

（グンナーソン氏）

民間の海運事業者は静観している状態にあると考えています。石油価格の下落、ロシアへの制裁等があり、前より北極海航路の魅力がなくなるととらえている向きもあります。しかし、私はこの状況を逆手に取り、この間は北極海航路がもっと魅力的になるために、私たち全員で考えたら良いと考えています。

例えば、ロシアの砕氷船が足りていません。ロシアが進めている開発プロジェクトに砕氷船を全て使ってしまうております。従って、この夏に実験的にトランジット航行を行おうとしても、砕氷船がエスコートをしてくれる保証はありません。このように、北極海航路の開発のために何が必要か、私たちは一緒に知恵を集めて徹底的に考えていきたいと思えます。

私たちの会社は、世界の海運事業者やロシア側と連絡をとっており、以前に比べて北極海航路に対する関心が低くなったと認識していましたので、「Arctic Business 2016」がキャンセルされたことは意外ではありませんでした。

（事務局）

グンナーソンさんから、構成員に質問・コメント等あればお願いします。

（グンナーソン氏）

ロシアには、現状使用できる砕氷船が40隻あり、新たに建造中のものが14隻あると伺っています。そのうち1隻はリーダーアイスブレイカーと呼ばれ4.1メートルの氷まで割れる能力を持ちます。これだけの氷が割れたら、大型の貨物船の船団をエスコートすることが可能です。

ロシアは石油と天然ガス、鉱石などを運び出したいので、北極海航路をいつでも使用

可能な状態にし、海のハイウェイにしたいと考えています。そのためにどのような開発が必要か、ロシアは計画を練っているところで、実は、私たちの会社はこれのお手伝いをしております。確か7月にロシアは計画を最終化すると聞いております。また、その計画を公開すると言っているため、7月末から今年の後半にかけて注目していきたい。トランジット航路として、北極海航路を有望視し、海運事業者を静観している状況から引っ張り出してくるためには、ロシアがどのような計画を公表するか次第と思います。

(構成員)

ロシアが作成中の計画について、グンナーソンさんは講演でも指摘されたとおり、インフラの整備はPPP、民間の投資をある程度前提に考えていると思います。ただし、商業的に魅力があると言い切れないところに、最初から先行投資が本当に得られるのか疑問は残ります。仮にロシアが国家予算を投じてインフラ整備に着手するのであれば、その動向を見て、民間からも投資ということが考えられなくはないと思います。この点について、ロシアがどの程度国家予算を投じて整備しようとしているか、感触があれば教えていただけますでしょうか。

(グンナーソン氏)

講演で示唆したとおり、先行投資は政府が行わなければならないと考えております。ただし、ロシアはそれだけの十分な予算がないので、他の政府と協力したいと考えていると思います。特に中国と協力したいとロシアは強く言っております。ノルウェーからの協力を取り付けたいという考えもあるかもしれませんが、まずは北東アジアの各国からの支援をお願いしたいと考えていると思います。

また、民間からの投資については、エネルギー関係会社等は、既に自身のインフラ整備を行っており、これが北極海航路のインフラの一部としてつながれば、大いにメリットがあることを考えていただきたい。更に、例えば港湾施設であれば、整備した後に民営化される可能性は大いにあります。港湾が整備され、世界のネットワークとリンクされれば、その後、海運事業者が参入し、その港湾にターミナルを整備することは有り得ることです。その良い例として、世界最大の海運事業者であるマースク (Maersk) は、世界中に30以上のターミナルを持っており、このような展開はあると思います。私の予想は以上です。

私たちの会社は極東開発ファンド (Far East Development Fund) とも緊密に連絡を取っておりますが、彼らはウラジオストク等の極東でのインフラ開発にも大いに関心を持っています。ロシア極東の開発と、将来、北極海航路が結びつけば、より強力になるのではないかと考えています。

4, 参加企業等との意見交換 (特になし)

5, 閉会

<以上>